

平成30年度 学校自己評価表（計画段階）

学校番号

福岡県立築城特別支援学校 印

特1

学校運営計画（4月）		評価（総合）		
学校運営方針	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導を通して、その能力や可能性を鍛えてほめて最大限に伸ばすとともに、心豊か人間性や生きる力を培い、将来の自立と社会参加に向けて、自ら考え主体的に生きる児童生徒を育成する。			
昨年度の成果と課題	年度重点目標		具体的目標	
多様な障がいのある児童生徒が自立し、社会参加することを目指し、心豊かな人間性や生きる力を育むために、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を行った。課題は、児童生徒の増加に伴う教育環境の整備と教職員の専門性が必要である。	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応える指導の充実		自己研修、校内研究・研修等により専門性を高め、より質の高い授業実践を目指す。/ 個別的教育支援計画・個別の指導計画に基づき決め細かな指導を行う。/ 個々の指導に関する情報共有の深化を図り、一貫性のある指導の継続に努める。/ 厳ほめ福岡メソッド(少し困難な目標の設定、必要最小限の支援、達成感を高める賞賛、強化)を推進する。/ 児童生徒の進路実現に向け、発達段階に応じたキャリア教育を推進する。	
	児童生徒が安全に、安心して学ぶことができる教育環境の整備		危機管理マニュアルや緊急対応マニュアルに基づく訓練を継続し、対応の理解を深める。/ セリハット事例の集積、情報共有を行い、危機管理意識を高く保ち、事故等の未然防止に努める。/ 医療機関との連携、定期的な委員会の実施等をとって、安全な医療的ケアを実施する。/ 共感的な生徒指導に努め、日常の観察や継続的な指導、家庭との連携等をとって、いじめや非行等の問題行動の未然防止に努める。	
	保護者や地域から信頼される開かれた学校づくり	保護者の意見や要望等を真摯に受け止め、また指導等に関する説明責任を果たして相互の理解を深める。/ 医療、福祉、労働機関との関係を深め、児童生徒を中心とした連携の強化を図る。/ 地域の特別支援教育の充実に向けた相談支援事業やセミナー等を展開する。/ 障がいのある児童生徒、ない児童生徒が、互いに理解し合うことができるよう、交流及び共同学習を推進する。/ HP等で本校の教育活動等について積極的に情報発信する。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教育運営部	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な教育活動の推進と環境づくり 学校の実態に応じた学校行事の実施、改善 個別的教育支援計画、個別の指導計画の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領の視点を共有し、各学部の課題に応じた教育課程の編成や改善を行う。教科書、教材教具等の有効活用のための環境を整備する。 反省を基に学校行事を計画立案、実施し、組織・運営の見直し、改善を図り、OJTの視点による業務分担を行う。 個別的教育支援計画、指導計画の改善点とその意図を共有し、活用スケジュールについて改善を図る。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 校務用パソコンの安全かつ適切な運用 ネットワーク環境および機器環境の整備 個人情報の管理 	<ul style="list-style-type: none"> 校務用ネットワークおよびサーバーの安全かつ適切な運用に努める。 マルチメディア機器の管理と活用支援を行う。 個人情報管理の策定、個人情報を保存する端末、媒体の管理に努める。 		
教育指導部	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の健全、かつ、自主的・自発的な育成 危機管理マニュアルの周知徹底と訓練の充実 通学バスの安全な運行 	<ul style="list-style-type: none"> つききり目標の定着と、自主的、自発的に取り組めるような生徒会活動や委員会活動を推進する。 職員研修や訓練を通して危機管理マニュアルの周知徹底と見直しを行い、災害や事故等の未然防止と対応に備える。 通学バスの決まりを周知させ、通学バスのスムーズな運行と児童生徒の安全な乗降を目指す。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の健康管理と緊急時対応の充実 健康で安全な教育活動の実施 安全な学校給食の実施と、食に関する指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や担任、医療機関との連携を密にし、児童生徒の健康管理の充実を図る。 危機管理マニュアルや医療的ケアの共通理解を図り、気になる児童生徒の健康上の課題の共有化を図る。 食物アレルギーや食中毒による事故防止のため、衛生管理の留意点について周知徹底を図る。 		
支援連携部	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい進路指導システムの構築 小・中・高等部の一貫性のあるキャリア教育の充実 保護者のニーズに合った積極的な情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導課の組織的な運営を行い、各学部と連携の取れた分かりやすい進路指導システムの構築を目指す。 各発達段階に応じた、系統性のあるキャリア教育の充実を図る。 		
	<ul style="list-style-type: none"> PTA活動、同窓会活動の支援 地域、関係機関、ボランティアとの連携協力 職場環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・各学部・各部門のニーズに合った進路情報の提供に努める。 PTA活動、同窓会活動が円滑に行われるように、進路指導課と協力しながら必要な支援をする。 関係機関と連携し、ボランティア要請、介護等体験の適切な実施、ふれあいフェスティバルの参加協力を行う。 職場環境を整備し、最善の職場環境を提供するように努める。 		
研修部	<ul style="list-style-type: none"> 全職員の共通理解に基づいた学校研究の推進 一人一人の適正な能力に応じた資質能力及び、専門性の向上 地域の保幼小中高への支援の充実 関係機関と連携した情報収集と発信 人権に関する知識の理解の促進と人権感覚の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修や基本研修を通して、教員のキャリアステージに応じた校内研修の設定、充実を図る。 校内研究が円滑に行われるように、研究の方向性を示し、研修体制作りや研修時間の確保等を行う。 研究授業後の協議会や授業評価表で授業の振り返りを行い、授業改善や教材教具の工夫、指導技術の向上を図る。 事前に子どもの見取りや支援内容の検討を十分に行って教育相談を行い、課内のスキルアップに努める。 他課と連携し、研修会や掲示、ホームページ等を通して特別支援教育や地域資源に関する情報を提供する。 係を中心に研修会の案内や参加呼びかけを行い、学部間の連携をとりながら人権教育の充実を図る。 		
知的障がい教育部門	<ul style="list-style-type: none"> 生活課題に沿った具体的な学習活動の中で成功体験を重ねることで自己肯定感の高揚と、職業生活に必要な基礎的知識や技能及び態度の育成 合理的配慮の観点に基づいた指導・支援の充実 部門内での連携強化と知識、情報を共有する 研修の充実と保護者のニーズに応える情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> 小学部：個別的教育支援計画と指導計画を適切に作成し、成功体験になるような課題を設定することで、児童の学習意欲を高める。また、校内支援を充実させ、専門的な人材を活用して児童の教育の充実を図ることができるようにする。 中学部：個々の生徒の発達段階や生活課題に応じて、生徒の理解を促すための学習環境や学習内容を工夫しながら授業改善を行い、「分かる・できる」という成功体験を積み重ねることで自己肯定感を高められるような授業の充実を図る。 高等部：合理的配慮の観点に基づいた研修を進め、生徒が地域の中で個を発揮させる場の設定や集団への帰属意識をもたせる工夫、ストレスに対する対応についての指導・支援の充実を図る。また、生徒の余暇の拡充に向け、総合的な学習の時間及び部活動の充実を図る。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ケース会議(外部関係機関、外部専門家を活用した組織対応)やあらゆる状況を想定したシミュレーションの実施に努め、報告・連絡・相談による危機管理意識の向上 家庭との連携と共感的な生徒指導 発信文書に対する責任感の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> 小学部：児童の実態に応じた緊急時対応シミュレーションを定期的実施し、教員の危機管理意識を向上させる。また、家庭や関係機関との連携を密にして、児童のケース会議等を実施し、職員間で共通理解を図る。 中学部：職員間の情報交換を密にし、職員全員が生徒の障がいと向き合い、生徒のニーズに応じた人権教育と性に関する指導の実践、緊急対応時シミュレーション訓練による危機管理体制の充実を図る。 高等部：家庭及び外部関係機関と連携したケース会議の実施や、校内の各課と連携した共感的な生徒指導、適切な情報提供及び相談活動を行う進路指導に努め、生徒や保護者の願いに迅速に対応する。 		
肢体不自由教育部門	<ul style="list-style-type: none"> 教員のニーズや課題に応じた様々な研修の実施や事業の活用による専門性向上、PDCAサイクルやグループ会の活性化等による授業改善 分かりやすく安心して取り組むことのできる構造化された教室環境、教材の視覚化、自分の力でできる教育環境や支援機器等の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> 小学部：障がい特性や類型に応じた目標や内容を設定し、目標や意図を明確にした授業づくりや指導に努める。また、児童の実態に応じた教材・教具の工夫を行ったり、AAC機器等を有効に活用したりしながら教育環境の整備と指導の充実を図る。 中学部：個々の生徒に必要な学習内容の精選、手だての工夫、学習集団の編成、環境の構造化等について整理し、週指導計画や学習指導計画等の活用を通して、職員間の共通理解のもと、効果的な指導・支援を行う。 高等部：PDCAサイクルに基づき、視覚化・構造化・動作化の工夫を行った分かりやすい授業を実践し、生徒一人一人に必要な学力及び生きる力を高める。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 安心・安全に過ごすことのできる体制づくりや校内におけるタテコよ及び外部専門機関との連携、危機管理意識・予測する力の向上 小中高のつながりや一貫性のある対応及び指導、保護者への説明責任と相互理解 類型ごとの課題整理及び課題解決に向けての取組 	<ul style="list-style-type: none"> 小学部：児童が安全・安心・安定できる教育環境と教育活動の確立を目指し、複数の目で児童の指導に当たり、怪我・事故等の予防に努める。また、保護者や医療・福祉・行政など、児童に関わる人や関係諸機関と連携・協働して教育活動を進める。 中学部：生徒の健康管理、事故防止に努めるとともに、職員全員が常に危機意識をもち、安心・安全な教育活動の充実を目指す。 高等部：進路指導の充実、A類型の新教育課程及び評価基準の決定など関係部署や関係機関と連携を図りながら課題解決に取り組む。 		